

青森県島守盆地地区における田園空間博物館の整備への住民の期待と参加意識 Expectation and Participating Consciousness of the Inhabitants for Improvement of Ecomuseum at the Basin of Shimamori in Aomori Prefecture

山田 千恵* 今井 敏行** 服部 俊宏**

Chie YAMADA* , Toshiyuki IMAI** and Toshihiro HATTORI**

背景と目的 近年、農家人口の減少と混住化の進行、地域産業の経営の厳しさ、高齢化・過疎化の進展等によって農村地域の活力が低下しており、その現状を打開するために様々な努力が行われている。本研究では、歴史的遺産の保存・活用を通じて新しい農村活性化の方向を探るため、田園空間博物館の整備に対する住民の期待と参加意識等について明らかにする。

調査方法 (1) 調査対象地の概要 本研究では、田園空間整備事業(田園空間博物館の整備)の実施地区として平成 10 年度に採択された青森県南郷村島守盆地地区を調査対象地とした。当地は、南郷村の中でも農村振興が遅れており、農家が 7 割を占める葉たばこを基幹産業とした農村地域で、埋蔵文化財包蔵地が村内一円に分布している歴史的遺産の豊富な土地である。

(2) アンケートの概要 島守地区(全 700 戸)の住民に対して、本整備における歴史的遺産の保存・活用に関するアンケート調査を実施した。調査票は 1400 部(各戸 2 部ずつ)を自治会経由または直接配布し、回収は返信用封筒を同封して郵送で行った。回収率は 25.3%であり、有効回答は 256 部であった。調査項目は、属性、本整備に対する住民の意識、保存対象の選定における住民の参加状況、歴史的遺産及びサテライト施設の保存活動・維持管理主体と活用の方向性、本整備への期待と住民の考える地域活性化、本整備への今後の参加意志の 6 項目である。

結果および考察 (1) 本整備に対する住民の意識 本整備について認識するまでの経緯を質問したところ、役場と関わりの深い『広報(30.4%)』および『地元説明会(22.1%)』によるものがおよそ半数を占めており、50 代および 60 歳以上では『自治会長の話』によるものも多数あった。これは、広報の配布が自治会長によって行われていることと自治会長の年齢が 50 代の人が多いことに関係しているものと考えられる。また、『ワークショップ』によって認識するに至った人は 40 代以上の人に限られており、ワークショップ参加者の平均年齢が 54 歳(島守四十八社巡りワークショップ)と高齢であることに起因していると思われる。本整備に対する住民の意識は、採択当初には好意的な意見が大半を占め、『興味はない』『興味はあるが面倒だ』『もっと別の事業がよい』『自分には関係ない』といった否定的な意見は 11.8%に過ぎなかった。現在においても好意的な意見が大半を占めるが、『興味を失った』などの否定的な意見は 13.4%に増加していた。住民の意識変化は『当初から変わっていない(62.3%)』『理解が深まった(33.6%)』『関心を失った(4.0%)』であった。『関心を失った』人が多かった自治会は盆地平坦部では 5, 6, 7 区に、盆地山間部で

* 北里大学大学院獣医畜産学研究所 Graduate School of Veterinary Medicine & Animal Sciences, Kitasato University

** 北里大学獣医畜産学部 School of Veterinary Medicine & Animal Sciences, Kitasato University

は他地区市町村と接している区に多くみられた。意識変化の理由としては、「理解が深まった人」では『地元説明会に出席した(38.5%)』が、「関心を失った人」では『知人・友人との話し合い(30.8%)』が最多であった。

(2)保存対象の選定における住民の参加状況 サテライト施設等保存対象の選定に対し意見を述べる機会の有無を質問したところ、およそ9割の人が意見を述べる機会はなかったと答え、その機会があった人は男性が大半(68.0%)を占めていた。また、高齢になるほど意見を述べており、意見伝達方法は『アンケートに書いた(44.8%)』『自治会長に話した(24.1%)』であった。これは、自治会長が全員男性であることと田園空間博物館地方委員会の専門委員に女性は1人しかいないこと、自治会長や専門委員と同年代であることに関係しているものと考えられる。

(3)歴史的遺産及びサテライト施設の保存活動・維持管理主体と活用の方向性 保存活動・維持管理主体についての住民の意向は、全ての歴史的遺産でこれらの主体は『南郷村』とするものが最も多く、続いて島守城跡および伝説では『青森県』、伝統芸能および伝統技能では『住民組織』、たばこ神社では『産業関連団体』であった(Table 1)。全てのサテライト施設においても主体を『南郷村』とするものが最も多く、総合情報館および島守館跡(集落農園) 島守発電所では『青森県』が続いていた。水辺の楽校および龍興山の山林(自然・景観)では『住民組織』が続いており、全体的に『部会』はわずかであった。活用の方向性は『地域の歴史に対する理解を深める』という意見が最も多かった。

Table 1 保存活動・維持管理主体における住民の意向について

The inhabitants' mind for the leader of conservation activities and maintaining management

保存対象	保存活動・維持管理主体												総計	
	青森県	南郷村	土地改良区	住民組織	企業	産業関連団体	労働組合	学校	部会	地域住民	わからない	その他		
歴史的遺産	島守城跡	37.8	44.0	0.4	5.8	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	2.2	6.2	0.0	100.0
	たばこ神社	2.7	35.3	0.7	14.0	6.7	18.7	2.0	0.0	2.0	6.0	12.0	0.0	100.0
	伝統芸能	10.7	29.9	2.5	19.8	0.0	9.6	0.0	8.6	2.0	13.2	3.6	0.0	100.0
	伝統技能	7.5	30.0	0.0	23.1	1.3	10.0	0.0	1.3	6.9	13.1	6.9	0.0	100.0
	伝説	15.6	35.9	0.0	12.6	0.0	11.4	0.0	5.4	3.6	7.8	7.8	0.0	100.0
サテライト施設	総合情報館	37.6	46.5	1.4	5.2	-	-	-	0.0	2.3	1.9	4.7	0.5	100.0
	島守館跡	18.6	53.6	1.1	12.0	-	-	-	0.5	2.2	7.1	4.4	0.5	100.0
	ホタルの郷	10.1	35.2	8.2	13.8	-	-	-	10.7	8.2	8.8	4.4	0.6	100.0
	水辺の楽校	11.3	39.6	2.5	17.0	-	-	-	11.3	5.7	5.7	6.3	0.6	100.0
	島守発電所	28.2	55.1	3.2	3.2	-	-	-	0.6	1.3	3.8	3.8	0.6	100.0
	龍興山の山林	14.5	45.8	6.0	15.7	-	-	-	0.0	1.8	10.8	4.2	1.2	100.0

(4)本整備への期待と住民の考える地域活性化 本整備への期待は『地域の自然・景観の保存(50.7%)』『地域の歴史・文化の保存(17.6%)』が大半を占め、地域産業に関わることはわずかであった。また、住民の考える地域活性化とは『観光開発』が大半を占めていた。

(5)本整備への今後の参加意志 ワークショップと部会への参加意志を調査したところ、ワークショップには『参加したくない』が大半を占め、部会には参加意志のある人が参加意志のない人を上回った。双方とも男性が大半を占めており、ワークショップ参加者の男女比率が6:1であることから、本地区の地域性がうかがえる。

まとめ 本整備における住民の理解はなお不十分であることと参加意識の低いことがわかった。広報活動は活発に行われたにもかかわらず住民の認識は十分でなく、住民参加において広く理解を求めることが不可欠である。住民の代表である専門委員の選出において、若者や女性が広く関心を持つように特定の年代や男性中心の選出に偏らず幅を持たせるなど、より住民に浸透させる方法を検討することも必要であろう。